

輸入されたカキによる赤痢の diffuse outbreak 事件

富田 正章

日本食品微生物学会雑誌, 19 (4), 162 - 165 (2002)

輸入されたカキが赤痢菌 (血清型 ソンネ) に汚染されており, これが原因となり全国的に diffuse outbreak 型の流行が発生した. 本事例においては, 国及び地方の行政機関, 研究機関の連携により, 菌学的調

査, 発生疫学的調査が効果的に遂行され, 感染原因の特定と再発防止がはかられた事例であることからその概要と問題点について考察した.

山口県 環境研究所報
第45号 (平成14年度)

陸水及びその集水域の窒素流動 [Flux] 調査

福永 健一, 阿部 吉明, 今富 幸也

2000年~2001年 日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業 陸水及びその集水域の窒素流動 [Flux] 調査報告書, 21~32 (2002)

本調査は, 日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業の一環として日本側 (山口県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県) と韓国側 (釜山廣域市, 全羅南道, 慶尚南道, 済州道) とで「陸水及びその集水域の窒素流動 [Flux] 調査」を共同して実施したものである. 山口県が担当したのは, Y市にあるY落葉果樹栽培圃場及びその周辺の流域についての水質調査等である. その結果について, 窒素循環に関する実態把握及び汚染機構の解明を行い次のことがわかった.

・ Y落葉果樹栽培圃場からの T-N の流出は, 降雨時

及び降雨後に大であり, 貯水池の富栄養化が進みアオコプランクトンの発生が見られた.

- ・ 水収支は, 年間降水量 1,883mm に対し, 32.9% が蒸発散, 18.6% が流出, 残りの 48.5% が地下浸透であった.
- ・ 窒素負荷量収支は, 降水と施肥による年間 71.8kg /ha の供給に対し, 作物吸収 42.1%, 脱窒 3.8%, 流出 16.6%, 地下浸透 18.9%, その他 18.6% であった.